

## 明治以降の日本におけるタータンチェックについて

福永葉子 (兵庫教育大)

〔目的〕スコットランドにルーツを持つタータンチェックは、糸の配列や配色が織りなす豊かな変化により、世界中のファッションに用いられており、‘団体としての’アイデンティティの表現としてや品質に伝統を持つブランドの柄としてわが国において人気を得ている。そこで、欧米文化を導入した明治期に焦点をあて、わが国の洋装化の進展の中で、タータンチェックがどのように受け入れられていったかを探りたいと思う。

〔方法〕「TARTAN」「Victorian and Edwardian Fashion」「ENGLISH WOMEN'S CLOTHING」「日本女史洋装の源流と現代への展開」「家庭雑誌」「三越」「流行」(白木屋)、錦絵などの資料を中心に、19世紀以降の英国のファッションとわが国の洋装を比較し、特に、タータンチェックの展開について調べた。

〔結果〕明治期の毛織物製品は輸入品で、欧米の服装がそのまま反映され、女子のバスルスタイルや男女のショール、膝掛け、男子のインバネスコート、二重廻し、チョッキ、子供のコートなどにタータンチェックが見られ、当時は高級な品で、一部の上流階級の人しか身につけられなかった。